

科目名	法律入門Ⅰ	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			経済 学科	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Introduction to Law	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
			開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中
ふりがな	くにい のりお	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	國井 法夫	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	経済の発展に従って法律がどのように変化してきたかを学ぶ。			
到達目標	「法的なものの考え方」(リーガルマインド)を学ぶ。			
授業概要	経済の発展に伴い法律がどのように変化してきたかを説明する。			
授業計画				
第1回	法とは何か	①我々が法と出会うとき ②自分の常識と世間の常識		
第2回	法とは何か	③法律に出あわないためには法律を知る必要がある		
第3回	我々の日常生活と法	①弱肉強食という秩序 ②人間を平等にするための機構		
第4回	我々の日常生活と法	③力の支配する秩序から契約の支配する秩序へ ④契約とは		
第5回	法の本質	①我々はなぜ法を守るのか ②法の本質についての考え方 ③法の超人性		
第6回	法の本質	④人間社会の自然的法則 ⑤神意説と自然法説の合体 ⑥法の三段階構造		
第7回	法の本質	⑦法思想におけるヒューマニズム ⑧人間のエゴと国家 ⑨信託国家		
第8回	近代私法の基本原則	①近代市民法の基本的三原則 ②近代市民法における所有権		
第9回	近代私法の基本原則	③法的責任について ④社会全体に対する責任と相手に対する責任		
第10回	近代私法の基本原則	⑤刑事責任 ⑥民事責任 ⑦過失責任の原則の意義		
第11回	法における人間	①法の主体は ②「人」はいない ③「人」の平等性 ④身分から契約へ		
第12回	法における人間	⑤生まれつきの商人はいない ⑥人は生まれることで平等		
第13回	法における人間(人はみな平等か)	①ワイマール憲法 ②形式的平等が持つ弊害		
第14回	法における人間(人はみな平等か)	③貧乏物語 ④法の現代化 ⑤経済的権力の誕生		
第15回	法における人間(人はみな平等か)	⑥人と法人 ⑦契約から再び身分へ ⑧社会法の登場		
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	経済学部出身者と法学部出身者とはものの見方が異なると言われる。この授業を受けることでどのような違いがあるのかを考えてください。			
履修条件 受講のルール	欠席せず真面目に授業が受けられる学生を求めます。			
テキスト	プリント			
参考文献・資料	特になし			
成績評価の方法	試験の得点(60%)・レポート提出(10%)・出欠・学習態度(30%)等で総合評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。			
オフィスアワー	毎週月曜日、金曜日午後			
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)			

実務経験及び実務を活かした授業内容	なし
学生へのメッセージ	真面目な授業態度・欠席しない学生を希望します。